

平成18年度「専修学校社会人新キャリアアップ教育推進事業」成果報告書

事業名	児童教育インストラクターの養成		
法人名	学校法人 吉田学園		
学校名	吉田学園総合福祉専門学校		
代表者	理事長 吉田 松雄	担当者 連絡先	伊藤 恵美 TEL 03-6811-5536
<p>1. 事業の概要</p> <p>子育ての経験は、幼児・児童教育の分野で活かせる必要不可欠なキャリアのひとつであり、これに各教育分野の知識やスキルを新しく獲得したり、過去の蓄積をブラッシュアップすることにより、幼児・児童教育の指導者として活動できるようになる。これは、子育てで就業を中断した女性の社会進出支援だけでなく、地域社会の教育力の向上にも役立つので、社会的意味は非常に大きいと考え、本事業を計画し首都圏(町田市)と北海道(札幌市)で実施した。本事業では、「保育全般」「子どもコーチング」「科学実験指導」「コンピュータ指導」の4科目からなる講座プログラムを提供し、児童教育の中でも人材需要が比較的大きいと見込まれる分野で必要な知識・能力を総合的に学ぶことができる構成とした。</p> <p>本事業の実施に当たっては、町田と札幌の両地域ともに、子育て支援を行なっているNPO法人と連携し、その協力の下で受講生の募集や講座カリキュラムの整備を行なった。また、就業につながるように、他団体の講習プログラムを取り込み、女性労働協会保育サポート講習会や日本赤十字社幼児安全法講習等の修了も同時に達成できるようにした。講座中においても、子ども科学教室を運営している企業の担当者や、子育て支援を行なっているNPO法人の代表者から、社会の現状説明を行なうと共に、求職に対する姿勢の重要性を説いて、就業への取り組みを支援した。</p> <p>札幌で、当初計画の子どもコーチング講座の受講生が集まらず、閉講後再度日程調整して再開講するような事態も生じたが、全体的に満足度の高い講座を実施することができた。受講後、両地域とも受講者がグループを組織し、お互いに協力しながら就業機会の開拓やボランティア活動を開始している。</p>			
<p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>2.1 目的・重点事項の達成状況</p> <p>2.1.1 講座プログラムについて</p> <p>協力機関であるマイクロソフト株式会社、株式会社日本スクールシステム機構、株式会社Aries、学校法人河合塾と講座概要・実施方法についてワーキング部会にて検討し、その方針に基づき、子育て支援を行なっているNPO法人や、科学実験を行なっているNPO法人等の協力を得て、4科目の講座カリキュラム・教材を開発・整備した。(講座内容等については2.2を参照)</p> <p>2.1.2 講座の受講者募集について</p> <p>各地域の現状・ニーズを的確に把握し、効率よく受講生募集ができるように、子育てや女性の社会進出を支援している団体との連携を目指した。多くの行政組織からアドバイスをうけ、特に財団法人女性労働協会から子育て支援を行なっている町田市のNPO法人CCCNETと、札幌市のNPO法人北海道子育て支援ワーカーズの紹介を受け、連携が組めた。各団体との打合せを重ね、その活動エリアで講座を開催し告知活動を実施することで、目標定員の受講者を確保できた。告知方法は、NPO法人の会員への直接的な告知や、地域の行政の広報媒体の利用、会員制のメールマガジンを利用することにより、安価に行うことができた。告知をより効果的なものにするための広報ツールとして、多くの告知箇所に設置できる「チラシ」と、講座詳細が具体的にわかる「パンフレット」を作成した。</p> <p>連携団体 首都圏:NPO法人CCCNET(代表理事:瓜生ふみ子氏) 北海道:NPO法人北海道子育て支援ワーカーズ(代表理事:長谷川敦子氏)</p> <p style="text-align: right;">【資料1-受講者募集状況 参照】</p> <p>2.1.3 受講者の修得状況について</p>			

総時間が132時間に上る長時間の講座は、子育て中の女性にとって非常に負担であるため、各科目単位での受講も許可した。各科目ごとの受講者数と出席状況は資料2に記載したが、平均出席率は町田で81.4%、札幌で91.6%であった。町田の8名の方が全科目受講し、出席率80%以上の受講者には修了証を交付するとしたところ、6名が修了した。修了証の発行率は、町田で81.3%、札幌で86.4%であった。各科目ごとの受講状況については、添付資料に記述した。

【資料2-受講状況 参照】

2.1.4 受講者の反応について

講座受講者アンケート(回収率:町田80.0%・札幌73.4%)の結果、講座を受けた全受講者の61.6%(町田62.9%・札幌60.9%)より今回の講座はキャリアアップに役立ったと回答を得た。アンケート回答者は、比較出席状況が良い熱心な受講者であるが、アンケート回収者では、81.3%(町田78.6%・札幌83.0%)がキャリアアップに役立ったと回答した。また自由記述からは、講座内容はもとより、受講者間の交流ができたことで、社会に出るためのステップになったという声が多かった。

【資料3-キャリアアップに役立ったか 参照】

2.1.5 受講者の再就業チャレンジについて

講座内容は、子ども指導者として即活かせる基本的な知識・スキルが習得できるという点では好評であったが、就業に結びつけるにはもっと応用的な知識・スキルや、多くの実習経験が必要という指摘が受講者よりあった。子どもの通う学校や地域活動の中でのボランティア活動とか、児童教育教室の補助等を経験して、一步一步自信をつけながら自己学習を続けることが就業に結びつく最短ルートと考え、今回の講座を良いキッカケとして、受講者の有志が町田(15名程度)でも札幌(15名程度)でもグループ活動を開始した。就業形態がまだまだ社会的に確立していない分野であるので、教室運営等の起業も視野に、まず地域教育に関わる計画をスタートさせた。

【資料4-受講後の予定 参照】

2.2 事業により得られた成果

児童教育インストラクター養成講座のための教育プログラムとして、心身の健全な発達を促す適切な保育法や安全対策・救命救護法などの保育に関する基礎知識をベースとした「保育全般」と、個々を理解し、個性を伸ばし、夢を育てる「コーチング」手法をコアカリキュラムとし、知性・感性を育む学びと遊びの教育科目には「科学実験」「コンピュータ」の指導方法を整備した。また、首都圏において実施した、この講座への導入となる「オリエンテーション」のプログラムも、長期講座へ取り組む姿勢の確立とか、キャリアデザインの重要性への喚起であるとか、内容を工夫した。以下にその内容を記述したが、全科目を通した講座としてだけでなく、各科目だけでも十分に講座が開講できるものとなった。

本事業においては、町田も札幌も子育て支援を行なっているNPO法人と連携できた。両法人とも、行政と連携しながら保育サポートを中心に活動しており、子育て女性や保育サポーターが数多く会員として所属している。その会員への告知が非常に有効であり、また地域の行政へのアプローチにも協力してもらえたので、受講生募集は短期間にも関わらず安価に効果的に行なえた。また、講座実施や教育内容に対する要望や意見がタイムリーに集約できたので、運営や講座内容の改善を行なうことができ、全体的な高評価につながった。このようなNPO法人とのパイプができたことは、地域における職業教育の推進について、専門学校の機能をうまく生かすパートナーが得られたこと、また専門学校の存在を地域の人たちに広くPRできたことは大きな成果であった。

2.2.1 オリエンテーション

- ・講座のねらい 地域の子ども支援を取り巻く環境を理解し、意識・モチベーションを高めてもらうため導入として位置づける。効果的な受講へ結び付けるにあたり、受講者どうしが早く馴染んでもらうようコミュニケーションスキルのトレーニングを取り入れた。
- ・講座の構成 全1日間・4時間
地域の子ども支援に求められていること、講座全体の説明と効果的な受講方法、コミュニケーションスキルのトレーニング、受講後の就労ガイダンスと盛り込んだ内容とした。
- ・教材 レジューメ「オリエンテーション」
- ・担当講師 JCDA認定CDAインストラクター 原 恵子氏(Career Seed代表)

2.2.2 保育全般

- ・講座のねらい 子どもの見方、とらえ方、働きかけ方など心身の健全な発達を促す適切な保育法や、怪我や事故に対する安全対策・救命救護法など、保育に関する基礎知識や病時保育への対応、ビジネスとしての保育提供の仕方など、子ども指導者として必要な基本的な知識と技術を学ぶ。
 なお、保育全般講座のカリキュラムと他講習の内容を連動させたため、講座修了時には以下の認定・修了証が交付された。
 - ・ 女性労働協会保育サポート講習会 修了証
 - ・ 緊急サポートネットワーク保育サポーター 認定証(首都圏)
 - ・ 日本赤十字社幼児安全法支援員 修了証
- ・講座の構成 首都圏:全10日間・40時間
 北海道:全10日間・42時間 【資料5-保育全般講座の構成 参照】
- ・教材 「育児サポート2」(財団法人 女性労働協会)
 「緊急サポートネットワーク事業 スタッフ会員 研修テキスト」(財団法人 女性労働協会)
 「幼児安全法講習教本」(日本赤十字社)
 その他 補助プリント
- ・担当講師 講座テーマに合わせて、保育士、医師、日赤指導員など各々専門分野の先生にお願いした。

2.2.3 子どもコーチング

- ・講座のねらい 子どもの心の仕組みを理解し、子どもの話や態度から子どもの自己イメージづくりのためのコーチング手法を学び、子どもの無限の可能性を広げるためには、どのようなコミュニケーションが大切であるかなど、事例研究を交えながら実践的な講習を行った。また、子どもコーチング講座のカリキュラムと他講習の内容を連動させたため、講座修了時には「親子共有コーチング認定書」(TPIジャパン)が交付された。
- ・講座の構成 受講しやすさからの募集効果を考慮し、各地区の地域性に合わせた日数・時間数で構成した。
 首都圏:全6日間・24時間
 北海道:全5日間・20時間 【資料6-子どもコーチング講座の構成 参照】
- ・教材 レジュメ「子どもコーチング」、その他補助プリント
- ・担当講師 首都圏・北海道とも、TPIファシリテーター 平澤一美氏(日本スクールシステム機構)

2.2.4 科学実験指導

- ・講座のねらい 理科実験や観察を体験するプロセスでは、子どもたちの興味関心を惹きつけ、楽しみながら自ら考え、自ら学ぶという生きる力を育むことができる。この講座では、身近にある材料を使って実践できる科学実験プログラムの指導方法を、実験を交えながらわかりやすく学ぶ。
- ・講座の構成 受講しやすさからの募集効果を考慮し、各地区の地域性に合わせた日数・時間数で構成した。
 首都圏:全8日間・32時間
 北海道:全5日間・20時間 【資料7-科学実験講座の構成 参照】
- ・教材 レジュメ「New!サイエンスリテラシー」(*首都圏のみ使用)、その他補助プリント
- ・担当講師 理科実験教室、科学館などで科学実験の指導者として経歴を持つ方をお願いした。首都圏では複数名の方に1日ずつ担当していただき、また北海道では一人の方にテーマに沿った内容をお願いした。

2.2.5 コンピュータ指導

- ・講座のねらい 急速に進むICT環境において、子ども時代におけるコンピュータとの出会いや適切な関わり方が重要になってきている。この講座では、コンピュータの適切な使い方を理解するとともに、表計算ソフト「Excel」やワープロソフト「Word」、また世界各国の子どもたちに使われている「スクイーク」の指導方法を学ぶ。
- ・講座の構成 受講しやすさからの募集効果を考慮し、各地区の地域性に合わせた日数・時間数で構成した。
 首都圏:全8日間・32時間
 北海道:全5日間・10時間 【資料8-コンピュータ講座の構成 参照】

- ・教材 レジューメ「パソコンってなあに?」、「スクイーク操作ガイド」(* 首都圏のみ使用)
- ・担当講師 首都圏ではソフト(Excel・Word、スクイーク)に合わせて、二人の先生にお願いした。北海道は一人の方に通して担当していただいた。

2.3 今後の活用

本講座で実施した科目の中で、当学園の生涯学習センターで開講できそうなものについて、その講座内容(時間数やカリキュラム)を精査し、有料でも受講者が見込めそうなものについては、開講を検討したい。特に、子どもコーチングについては、親子共育プログラムに改編することができれば需要は大きいと思われる。

2.4 次年度以降における課題・展開

2.4.1 講座の時間数について

各科目の講座時間数が足りないという声は多かったが、個々の家庭事情などを考えると、短期間にこれ以上詰め込むのは難しいと思われる。講座内容をより高度にし、修得度をアップさせるために時間数を増やすことは有効だと思われるが、その場合、自習などの時間を見込んだ長期スパンでの実施や、また振替や補習の制度、e-learningによる自宅学習など多様な学習形態を取り入れる等の配慮が必要である。

【資料9a-受講者からの意見 参照】

2.4.2 講座費用と受講申込について

自らのスキルアップのために教育費は必要だと感じている受講者は全体の6割を越えていたが、実際支払う金額として想定されているのは、一般的な社会人スクールの相場よりも低めである。講座受講の効果がよくみえない受講前の段階では判断しかねるという声もあり、講座受講後の付加価値(修了認定や就業先との連携など)を充実させることができれば受講申込み段階で有効に働き、募集効果にもつながると思われる。今回は無料講座であり、地域に密着したNPO法人との連携があったので、受講生は募集できたが、有料でかつ連携がないと、受講者確保は相当困難と推測できる。

【資料9b-講座受講料について 参照】

2.4.3 「児童教育インストラクター養成」講座のテーマについて

4つのテーマ(科目)については受講者より好評であった。特に、就業目的だけでなく、地域の活動でも十分活かせる内容であったことに評価は高かった。今後はさらに一步深めた内容での実施や、食育や英会話、自然教育など異なるテーマでの開催を求める声も上がっている。また、コンピュータ科目では受講者スキルの差が大きかったことから、レベル別の設定も必要と思われる。

【資料9c-子ども指導者養成講座として望まれるテーマ 参照】

2.4.4 受講者募集について

子育て等のために就業を中断した女性をターゲットに講座を実施する場合、幼稚園・小学校・PTAなどの子どもに関連する団体や地域の支援ボランティア・NPO法人を経由することで効果的に募集できるようだ。支援ボランティア・NPO法人をいかに見つけ出すか、そしてうまく連携が取れるかが受講者募集の鍵となる。

【資料9d-受講者募集の有効手段 参照】

2.4.5 受講後の再就業支援について

地域における子育て支援のニーズは高いものの、それに対応する仕組みの量・質とも地域によって様々で、全体としてまだまだ就業支援となっていないので、正規雇用として就業することは依然として困難であることは間違いない。本講座の目的のようなパートタイムで比較的高賃金を目指す分野も、まだ就業機会としても十分に確立されていないのが現状である。就業先の開拓と、需給のマッチングが課題である。

【資料9a-受講者からの意見 参照】

3. 事業の実施に関する項目

3.1 キャリアアップ講座の実施

3.1.1 オリエンテーション

- ・講座の実施期間・場所 首都圏:平成18年10月27日 全1日間・4時間
於「デジタル東京専門学校」(町田市原町田5-10-16)
- ・受講者数・属性・受講状況 首都圏の講座を受講する方(単独科目受講者含む)全員を対象に参加を促したところ、7割以上の方の出席を得た。

【資料10-オリエンテーション 受講者数・属性 参照】

- ・受講者の反応 講座の全体説明にとどまらず、コミュニケーショントレーニングを取り入れたことが受講者に好評で、受講スタートのウォーミングアップとして効果的に機能したと思われる。

【資料11-オリエンテーション 受講者からの評価 参照】

3.1.2 保育全般講座

- ・講座の実施期間・場所
首都圏:平成18年11月1日～12月20日の全10日間・40時間
於「デジタル東京専門学校」(町田市原町田5-10-16)
11/22学童保育ボランティア研修【資料12a-ボランティア研修先リスト 参照】
11/29病児保育室見学 【資料12b-病児保育室見学先リスト 参照】
北海道:平成19年1月17日～2月7日の全10日間・42時間
於「道民活動センター かでる2.7」(札幌市中央区北2条西7丁目)
- ・受講者数・属性
受講者は首都圏が30～40代、北海道では50代を中心とする女性が大半で、子育てによる就業中断期間は3年未満～8年以上と様々であった。
首都圏においては別団体が同様の内容で実施していた保育講座と開講期間が近かったため、受講者数は13名と少なかったが、北海道においてはそのような状況はなく31名と定員を上回る受講者を得た。
【資料13-保育全般 受講者数・属性 参照】
- ・受講者の受講状況
受講者の出席率は高く、首都圏においては受講者全員に修了証(出席率80%以上)が交付された。
北海道においても受講者は積極的で、担当講師陣からも意識・モチベーションが高いと好評を得た。
【資料14-保育全般 受講者の出席状況・講座風景 参照】
- ・受講者の反応
首都圏は講座テーマ毎にそれぞれの専門分野の先生にお願いしており多岐にわたる内容であったと好評であったが、反面、講師によって内容・質が違うというバランスの悪さも指摘された。
一方、北海道においては、全体を通して充実した講座内容であったと好評を得た。
【資料15-保育全般 受講者からの評価 参照】

3.1.3 子どもコーチング講座

- ・講座の実施期間・場所
首都圏:平成18年10月31日～12月19日の全6日間・24時間
於「デジタル東京専門学校」(町田市原町田5-10-16)
北海道:平成19年2月19日～2月23日の全5日間・20時間
於「吉田学園ビジネス情報専門学校」(札幌市東区北15条6丁目)
*当初は11/13～11/17札幌コンファレンスホールにおいての実施を計画していたが、受講者募集状況から上記日程に変更した。
- ・受講者数・属性
40代を中心とする女性で、子育てによる就業中断期間が比較的長い方が多かった。
首都圏においては、前職が教員・塾講師などの教育関係者が多く、受講者が最も多く集まった科目でもあった。
【資料16-コーチング 受講者数・属性 参照】
- ・受講者の受講状況
講座はまず理論を学び、その後実践・スキルトレーニングという構成であった。前半の理論部分の理解度が後半の出席率に影響したと思われる。その現状をふまえカリキュラム構成を一部見直した結果、北海道の受講者は全体を通して出席率がよかった。
【資料17-コーチング 受講者の出席状況・講座風景 参照】
- ・受講者の反応
前半の講義部分は抽象的な理論も多く、講義時間も多かった受講者になかなかなじめなかったようだが、後半の実践・スキルトレーニングの部分は首都圏・北海道とも好評だった。前半・後半とも時間数が少ないとの声が多く占めた。コーチングについては理解を深められたものの、「子どもを対象とした」という部分が具体的に伝わらず、その部分をもっと学びたかったという声もあった。
【資料18-コーチング 受講者からの評価 参照】

3.1.4 科学実験指導講座

- ・講座の実施期間・場所
首都圏:平成18年11月9日～12月14日の全8日間・32時間
於「デジタル東京専門学校」(町田市原町田5-10-16)
北海道:平成18年12月13日～12月19日の全5日間・20時間

- 於「道民活動センター かでる2.7」(札幌市中央区北2条西7丁目)

30～40代を中心とする女性で、子育てによる就業中断期間は5年以上が多かった。

首都圏の受講者は、科学的なことには自信がないが、科学実験には興味があるという方が大半であった。北海道は、短い募集告知期間となったため広報効果が低く、受講者の集まりが悪かった。

【資料19-科学実験 受講者数・属性 参照】
- ・受講者の受講状況

首都圏においては、一部家庭の事情で欠席となってしまった方を除き出席率が良かった。北海道は、100%の出席率だった。

【資料20-科学実験 受講者の出席状況・講座風景 参照】
- ・受講者の反応

首都圏においては、毎回違う講師の方に、それぞれの科学実験教室スタイルで担当していただいたが、実験も多く取り入れたので好評であった。講座満足度も高く、身近なところで楽しさを伝えられるコンテンツなので、受講後の活動意欲へ拍車をかける科目となったようだ。

北海道においても、科学のおもしろさを改めて実感できたと好評だった。

【資料21-科学実験 受講者からの評価 参照】

3.1.5 コンピュータ指導講座

- ・講座の実施期間・場所

首都圏:平成18年10月30日～12月18日の全8日間・32時間
於「デジタル東京専門学校」(町田市原町田5-10-16)

北海道:平成18年12月4日～12月12日の全5日間・10時間
於「吉田学園ビジネス情報専門学校」(札幌市東区北15条6丁目)
- ・受講者数・属性

首都圏では40代を中心とする女性が大半で、子育てによる就業中断期間が長い(8年以上)の方が多かった。コンピュータスキルについては、就業または家庭で経験がある方がほとんどであったが、未経験の方も数名みえた。(講座では助手がアシスタントできると判断し、スキル条件を課すことなく受講者募集していた)

北海道においては、募集に協力していただいた施設所在地域から講座会場までの交通利便性が悪かったため、レンタルバスを用いて受講者を送迎した。

【資料22-コンピュータ 受講者数・属性 参照】
- ・受講者の受講状況

首都圏においては、受講者のスキルレベルの差が思いのほか大きく、講師・助手はフォローが欠かせなかったが、受講者の出席率は高かった。

【資料23-コンピュータ 受講者の出席状況・講座風景 参照】
- ・受講者の反応

受講者スキルに差があり、Excel・Wordではレベルの高い方は少し物足りなさを感じているようであった。また、コンピュータを子どもたちに教えるという観点でもう少し学びたかったという声もあがっていた。

北海道では、スキルレベルが比較的揃っていたこともあり、ちょうど良い内容・スピードだったという声が多かった。

【資料24-コンピュータ 受講者からの評価 参照】

3.2 会議等

3.2.1 ワーキング部会

事業を円滑に運営するために、ワーキング部会を開催し協力企業の部員から意見を聞いた。受講生募集にメールマガジンを利用できるように対応してもらおうとか、教材整備への直接的な協力を得られるなど、有効に機能した。

- 第1回 平成18年8月2日(水) 都市センターホテル(東京都)
- 第2回 平成18年9月7日(木) 河合塾 池袋パークビル(東京都)
- 第3回 平成18年10月10日(火) ホテルニューオータニ札幌(北海道)
- 第4回 平成19年3月2日(金) サンプラザ(東京都)

3.2.2 事務局打ち合わせ

講座スケジュール、講座内容、受講生募集のためのチラシ、パンフレット作成等の詳細打ち合わせのために、首都圏担当と札幌担当が具体的な内容についてつめた。

3.2.3 成果発表会

全国専門学校情報教育協会主催のフォーラム2007の中で、成果報告を行なった。内容は、事務局からの概要説明、科学実験指導の担当講師から講座内容の説明と就業環境について、保育全般の教材整備を担当してもらったNPO法人CCCNETの代表理事から、保育全般の講座内容および子育て支援の状況と女性就労の課題等を報告してもらった。

3.3 その他

3.3.1 講座時間数・日程の設定、託児支援など受講しやすさについて

一日あたりの時間数や実施曜日の設定を受講者の立場から配慮するとともに、講座全体に必要な科目だけを選択受講できるようにするなど受講しやすさを工夫した。また、受講中は託児支援が受けられること、不慮の事故等に備えた傷害保険への加入が必須であることなど受講者募集段階で告知し、受講するにあたって考えられる不安が解消できるよう工夫した。

3.3.2 講座修了者への付加価値の提供について

保育全般と子どもコーチング講座については、一部内容を他団体の研修内容と連動することで、修了者にはそれぞれの団体からも認定証・修了証発行されるよう付加価値をつけた。

保育全般講座:「保育サポート講習会修了証」(女性労働協会)

「幼児安全法支援員認定証」(日本赤十字社)

子どもコーチング講座:「親子共育コーチング認定証」(TPIジャパン)

3.3.3 受講者のモチベーションUPへの対策について

受講者のモチベーションUP・維持のための仕掛けとしてオリエンテーションを実施した(首都圏のみ)。また講師の助手を複数名体制にし、受講中の受講者の声をリアルに汲み取り、講師へフィードバックするなど受講者フォローと講座の進捗管理に努めた。